

平成 21 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	反応集積化の合成化学 革新的手法の開拓と有機物質創成への展開	
領域代表者名	吉田 潤一 （京都大学・工学研究科・教授）	
研究期間	平成 2 1 年度～ 2 5 年度	
<p><b>【科学研究費補助金審査部会における所見】</b></p> <p>本研究領域は、時間的・空間的な反応集積化をキーワードにして、物質変換のブレークスルーとなる合成手法の開発を目指すものである。計画研究は力量のあるメンバーで構成され、成果が期待できる領域組織構成になっている。新しい触媒反応の開発と集積化は合成化学の発展に寄与すると考えられるので、領域推進の意義は高いと判断される。有機化学全般に亘る研究内容を、領域代表者がリーダーシップを発揮してマネジメントし、有機的な連携を保って領域研究を推進することで、合成化学の新領域が開拓されることを期待する。</p>		